

用語集

- ✓ アジャイル開発: 機能単位毎にリリースを行い継続的かつ反復増加型のシステム開発手法
- ✓ インフラマネージドサービス: データセンターの運用・保守・管理
- ✓ 従来型データセンター: データセンタービジネスの内、クラウド向けではなく、ユーザーが自社で保有するもの(オンプレミス)
- ✓ ノーコード: ソースコードを書かずにシステムを開発できるツール
- ✓ ローコード: 最小限のコードでシステムを開発できるツール
- ✓ BC: Block chain
- ✓ BPO: ITO以外の業務委託
- ✓ DE: デジタルエンジニアリング。デジタルテクノロジーを組み合わせたアプリケーションにより、業種問わずプロセス(設計・開発・生産等)・ビジネスモデルのサービス化・プロダクト及びサービス(組込みソフト、ユーザーエクスペリエンスやカスタマーエクスペリエンス改善)を変革するソリューション
- ✓ DevOps: 開発担当者と運用担当者が連携して開発する手法
- ✓ DX: デジタルトランスフォーメーション
- ✓ IaaS: Infrastructure as a Service
- ✓ ITO: 情報システムに関連する業務委託
- ✓ PF: プラットフォーム
- ✓ Pure Digital: DEに特化したITサービス企業群
- ✓ SaaS: Software as a Service
- ✓ SI: システムやインフラの開発・実装
- ✓ XR: 「VR(仮想現実)」「AR(拡張現実)」「MR(複合現実)」の総称

変化する業界構造の中で、顧客ニーズの捕捉とテクノロジーへの対応力が重要に

I. 需給動向		(短期) ■ グローバルの情報サービス需要は、欧米を中心に経済成長鈍化に伴い成長率は低下するものの、デジタル化に対応するためのIT投資は引き続き拡大し、2023年は前年比+9.7%、2024年は同+10.6%を予測 ■ 国内需要は、グローバル対比定位な成長となるものの、2023年、2024年ともに同+6.7%となる見込み (中期) ■ グローバルでは、顧客ビジネス変革に資するコンサルティング、標準化・効率化に資するクラウド、ソフトウェアが成長をけん引し、年率+11.1%での成長を予測 ■ 国内においても、既存システムの更新需要やDX需要を背景に、年率+7.3%で成長する見通し
II. トピックス	競争環境	(短期) ■ ユーザーニーズの変化、クラウド活用の進展等のトレンドを受け、従来型ITサービス企業は成長性及び収益性で苦戦。従来型マネージドサービスの分離やソフトウェア領域への進出等により、レガシー領域からの脱却を模索 (中期) ■ 業界の垣根が崩れ、テクノロジーと専門性をエッジとする強力なプレイヤーが多数存在。生成AIの様なテクノロジーの進展に伴う業界構造の変化が大きく、テクノロジーへの対応力が差別化要素に
	リスクとチャンス	(チャンス) ■ 生成AI市場の出現に伴い、IT投資の拡大が加速 — コンサルティング等のサービス、AI機能を実装したアプリケーション領域でのビジネス機会が拡大する見込み — 生成AIモデル自体の構築には多額のコンピューティングコストがかかるため現状収益化は困難だが、特化型や軽量化への注力で収益性の改善が期待される (リスク) ■ IT投資は継続的な拡大が見込まれる一方、顧客ニーズの変化・テクノロジーの進展に伴い業界構造が変化。競争優位の源泉が変容し、現状のケイパビリティでは競争優位性を維持できない可能性も
	アナリストの眼	(ビジネスモデルの転換) ■ 情報サービス企業は、従来の労働集約型ビジネスから脱却し、①顧客企業変革のパートナーへの昇華、②先端テクノロジーの活用によるプラットフォームの提供主体への転換、③テクノロジーベンダーとして資本集約型ビジネスの強化が求められる

(出所)みずほ銀行産業調査部作成

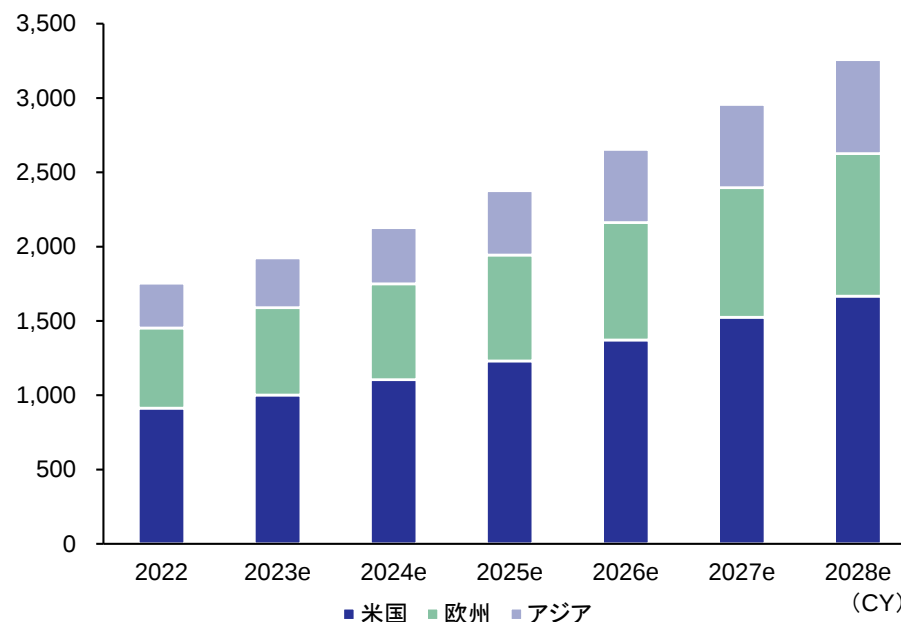
【グローバル需要】デジタル化に対するIT投資が拡大、高成長を見込む

- 2023年のグローバル市場は、欧米を中心としたマクロ経済の停滞により成長率は鈍化するものの、デジタル化需要は引き続き拡大し、前年比+9.7%の成長となる見通し
- 欧米においては、デジタル化需要は継続、生成AI需要もドライバーとなり2024年以降も年率+10%程度の成長を維持
- アジアにおいては、中国やインド、インドネシア等の新興国の経済成長をてこに2023年以降も年率+13%超の高成長を見込む

グローバルの情報サービス市場の中期見通し

(十億ドル)	2022年 (実績)	2023年 (見込)	2024年 (予想)	2028年 (予想)	CAGR 2023-2028
米国	913	1,001	1,105	1,667	-
前年比	+14.9%	+9.7%	+10.3%	-	+10.7%
欧州	540	588	645	960	-
前年比	+14.8%	+9.0%	+9.6%	-	+10.3%
アジア	301	335	378	632	-
前年比	+17.2%	+11.2%	+12.9%	-	+13.6%
合計	1,754	1,924	2,128	3,258	-
前年比	+15.2%	+9.7%	+10.6%	-	+11.1%

(十億ドル)



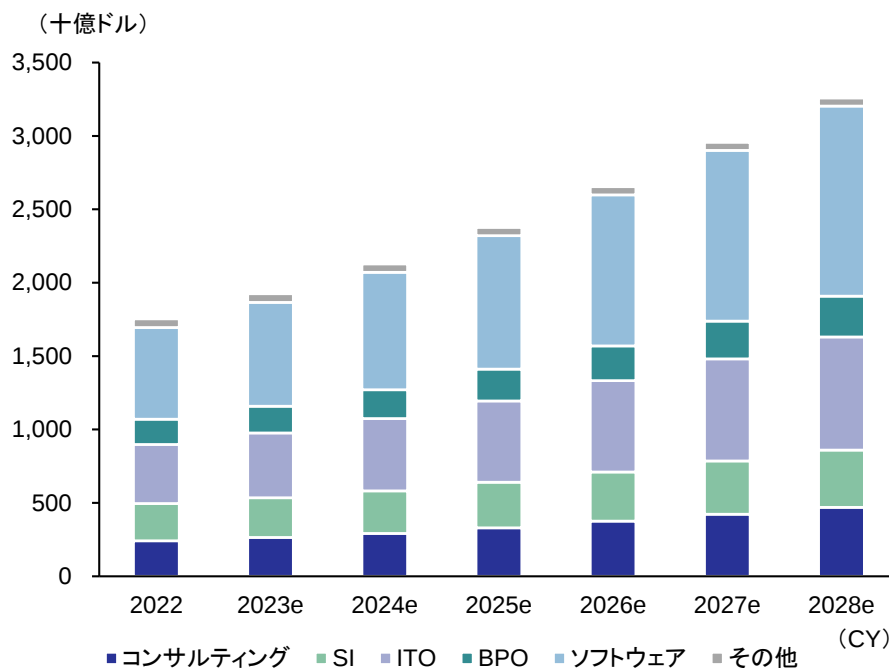
(注) 両図ともに2023年以降はみずほ銀行産業調査部予測

(出所) 両図ともに各種公表資料より、みずほ銀行産業調査部作成

【グローバル需要】IT投資は、ビジネス変革と標準化・効率化の両面で拡大

- サービスライン別では、コンサルティング、ITO、ソフトウェアが拡大
 - ユーザー企業のビジネスモデル変革を支援するコンサルティングは年率+12.2%で成長する見込み
 - ITOのうち、IaaSはクラウド化の進展を背景に年率+20%の高成長が継続する見通し
 - ソフトウェアについては、ユーザーニーズの多様化を背景に汎用的なパッケージソフトウェア、SaaSの活用が進展し、年率+12.8%での成長を見込む
- SIにおいては、他のサービス対比低成長ながら、ビジネスモデル変革に資するアジャイル開発が成長をけん引

サービスライン別情報サービス市場の中期見通し



(注) 2023年以降はみずほ銀行産業調査部予測

(出所) 両図ともに各種公表資料より、みずほ銀行産業調査部作成

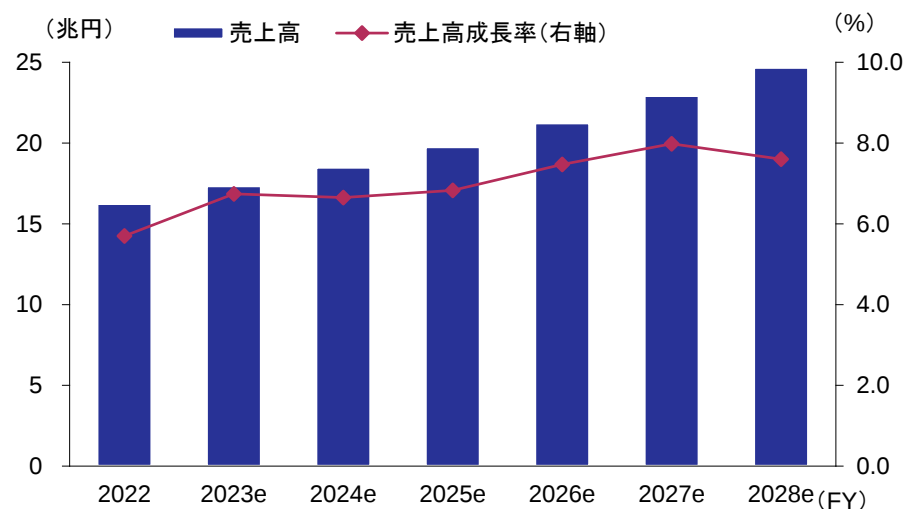
サービスライン別需要の動向

サービスライン	CAGR 2023-2028	コメント
コンサルティング	12.2%	■ ユーザーのDX推進に重要なケイパビリティであり、DXニーズ創出の役割期待も
SI	7.6%	■ 他のサービスライン対比低成長ながら、ビジネスモデル変革ニーズを背景に、アジャイル開発が成長をけん引
ITO	11.8%	■ クラウド化進展を背景に、IaaSが20%超の成長を継続。一方でオンプレミス型のインフラマネージドサービスの成長は限定的
BPO	8.8%	■ 引き続き汎用的な業務の委託ニーズは健在
ソフトウェア	12.8%	■ クラウドの進展及びユーザーニーズの多様化に伴い、汎用的なパッケージソフトウェア、SaaSの更なる活用が進む見込み

【国内需要】既存システムの更新ニーズやDX需要を背景にIT投資は拡大

- 2023年の国内市場は、デジタル化の遅れやユーザー企業のIT人材不足を背景にグローバル対比低位ではあるものの、前年比+6.7%で成長し17.4兆円で着地見込み
 - 2024年以降も、既存システムの更新需要やDX需要がけん引し、国内におけるIT投資の拡大を見込む
- 国内においてもパッケージソフトウェアやSaaSの普及が進展しつつあるものの、受注ソフトウェアが59.5%と過半の水準を維持

国内の情報サービス需要の中期見通し

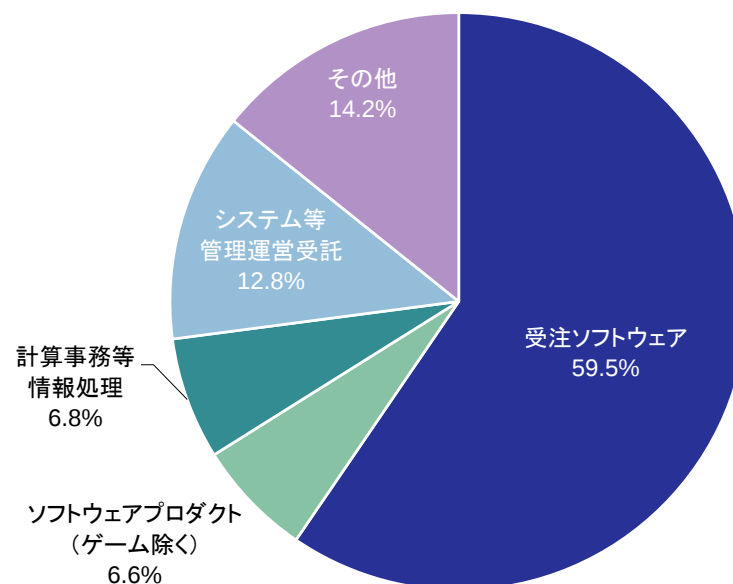


(兆円)	2022年 (実績)	2023年 (見込)	2024年 (予想)	2028年 (予想)	CAGR 2023-2028
国内需要	16.3	17.4	18.5	24.7	-
前年比	+5.7%	+6.7%	+6.7%	-	+7.3%

(注) 2023年以降はみずほ銀行産業調査部予測

(出所) 両図ともに経済産業省「特定サービス産業実態調査」より、みずほ銀行産業調査部作成

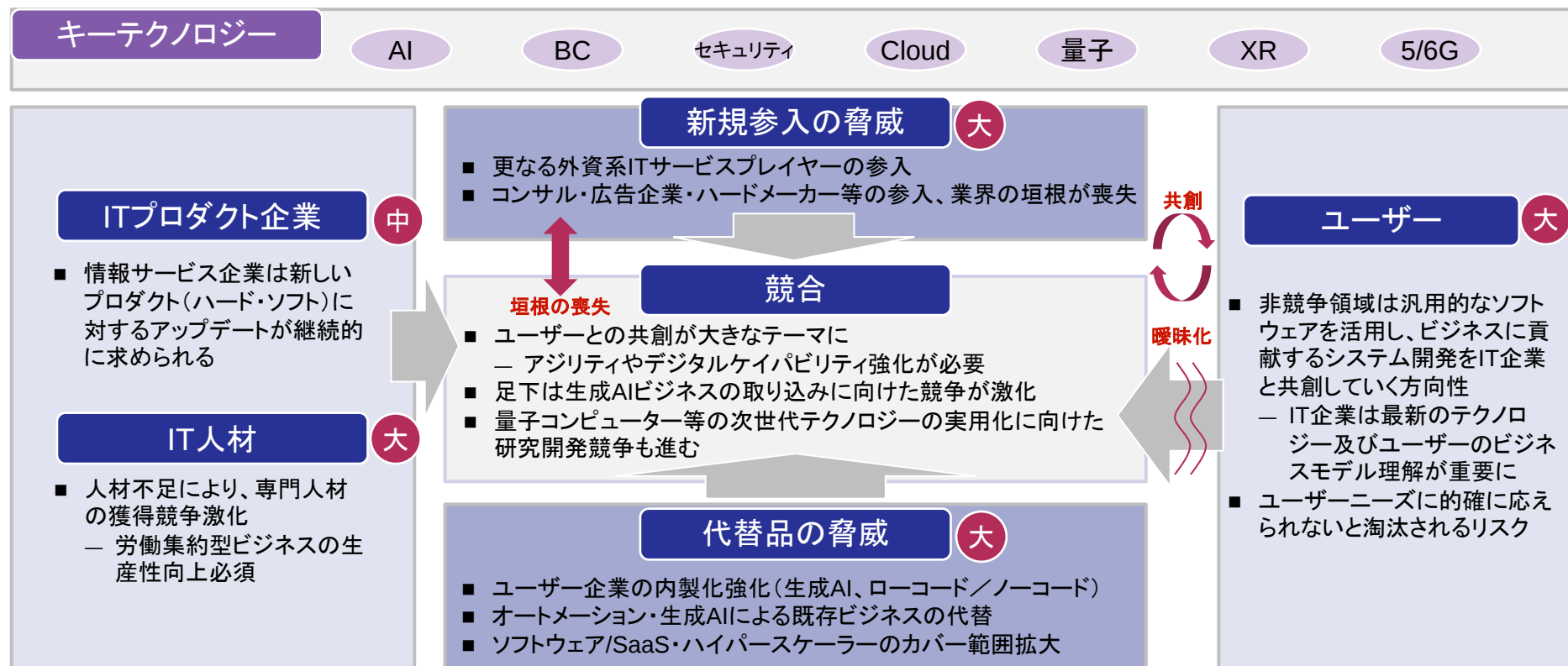
業務別売上高構成比(2022年度)



業界の垣根が喪失し、多様なプレイヤーによって競争が激化

- テクノロジーの進展と顧客ニーズの多様化により、業界の垣根が喪失し、競争の激化が予想される
 - ベンダー間の競争においては、勃興と衰退の激しいテクノロジーへの対応力が差別化要素に
 - ユーザーによる内製強化が進み、情報サービス企業はユーザーとの新しいビジネスやサービスの共創が重要に

情報サービス業界における競争環境



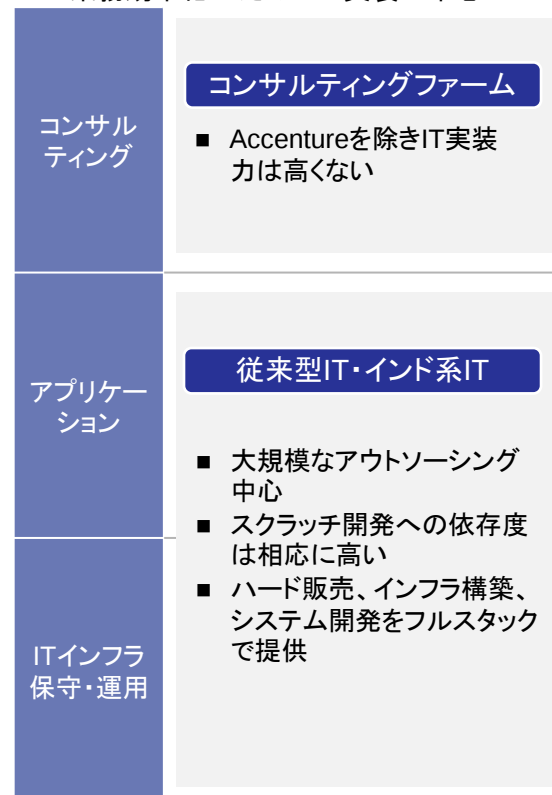
(出所)みずほ銀行産業調査部作成

業界トレンドの変化を受け、従来型ITサービス企業は苦戦

- 顧客ニーズの変化、テクノロジー発展等のトレンドを受け、ハイパースケーラーによる従来型データセンター（DC）ビジネスの侵食、コンサルティングファームによるIT強化及びDXニーズの捕捉により業界構造が変化
- 従来型ITサービス企業は、レガシー領域から高付加価値領域への転換が必要に

過去

- 大規模なフルアウトソース中心
- 業務効率化のためのIT実装が中心



現在～中長期の変化

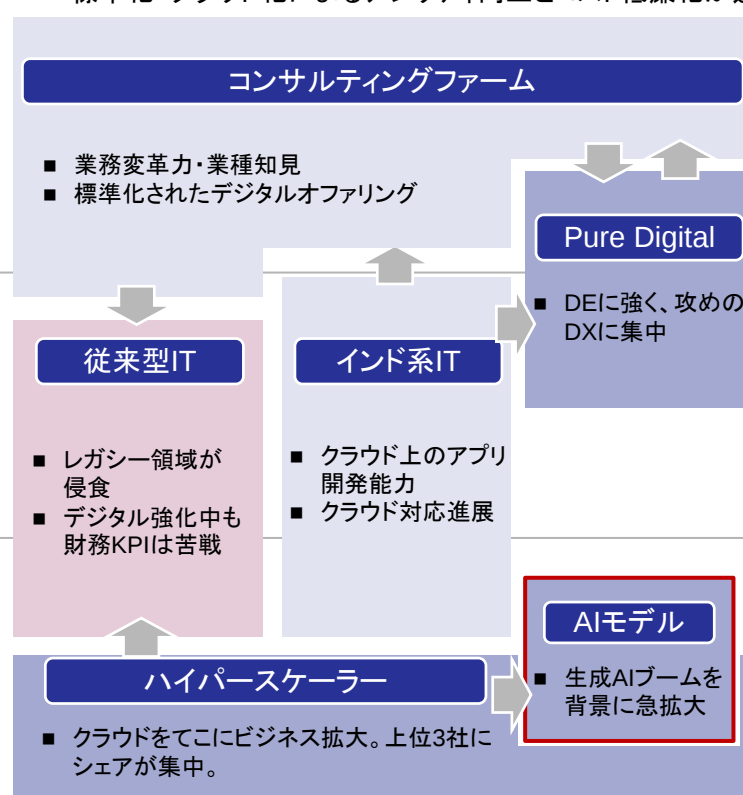
: 高成長

: 中成長

: 低成長

: 類型化企業群

- デジタルテクノロジーの活用による業務・ビジネスモデル変革にニーズがシフト
- 標準化・クラウド化によるアジリティ向上とコスト低廉化が選好されるトレンド



上流

- コンサルティングファームによるDX
ケイパビリティの強化
— デザイン領域の強化と、デジタルソリューションの拡充を進める

- アプリケーション開発の重要性増大
— ユーザーのDXに特化したPure Digitalの躍進
- ITインフラで苦戦する従来型ITサービス企業はレガシー領域からの脱却を模索

下流

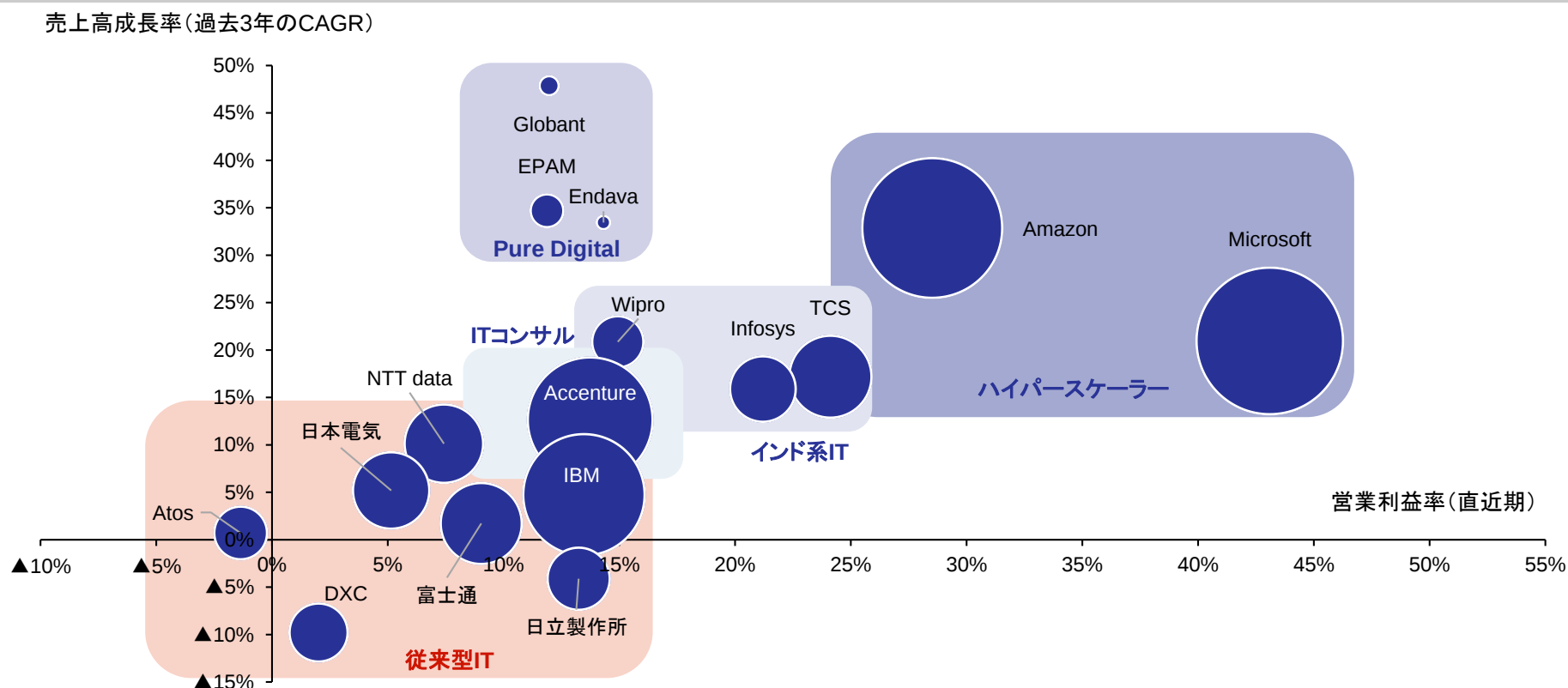
- ハイパースケーラーが従来型のITインフラビジネスを侵食
- 生成AIモデルに対しては、ハイパースケーラーを中心に技術獲得競争が激化

(出所) みずほ銀行産業調査部作成

足下はプレイヤー毎の優勝劣敗が鮮明化

- ①業務・ビジネスモデル変革ニーズの高まり、②クラウド増加による従来型DC関連案件減少等を踏まえ、足下ではプレイヤー毎の優勝劣敗が鮮明化
 - Pure Digital、ハイパースケーラーは構造変化を捉えて大きく成長。従来型IT企業は、レガシー領域からの脱却に苦戦

主要ITプレイヤーの財務KPI比較(円グラフ:売上高規模)

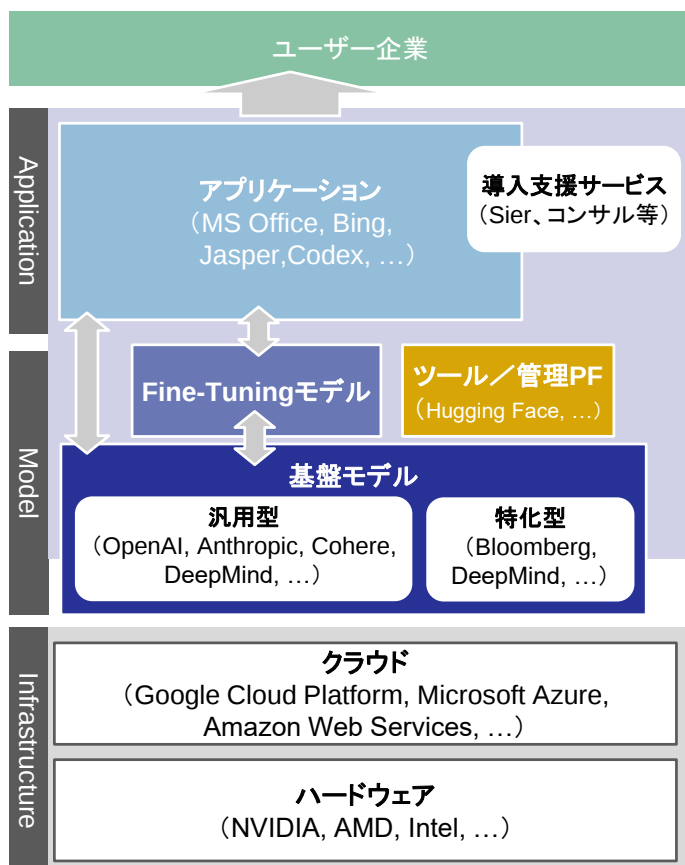


(注) 日立製作所についてはDSS、AmazonについてはAWS、MicrosoftについてはIntelligent Cloudセグメントで記載。NTT dataの成長率はNTT Ltd.との合算
 (出所) 公開情報より、みずほ銀行産業調査部作成

【チャンス】生成AI関連需要に伴い新たなビジネスチャンスが創出

- 生成AI市場の出現に伴う関連需要は、短中期におけるITサービス市場の主要な成長ドライバーとなる見通し
 - 生成AIの普及段階においては、サービス、アプリケーション領域への参入機会が拡大
 - AIモデル単体での収益化は現状困難だが、特化型や軽量化への注力で収益性の改善が期待

生成AIに市場におけるレイヤー構造



生成AIバリューチェーンにおけるビジネスの動向

セグメント	参入機会	収益性	成長性	今後の方向性
サービス	✓✓✓	✓✓	✓✓	■ ユーザー企業におけるAIスキルの不足を背景にAIサービス需要が拡大 — ガバナンス構築等、コンサルティング需要が先行
アプリ	✓✓✓	✓✓	✓✓✓	■ 既存アプリケーションへのAI実装が当たり前の世界観に — 対応可否が差別化要素に
特化型	✓✓	✓✓	✓✓	■ 独自データ含む専門性の向上とエネルギー消費量削減の観点から活用が進むことが想定 ■ モデル構築の知見と顧客企業のビジネス理解が重要
汎用型	✓✓	✓	✓✓	■ 開発・運用に膨大なコンピューティングコストが必要であり、モデル単体での収益化は現状困難 ■ 軽量化を実現することで収益性改善が期待できる
クラウド	✓	✓✓✓	✓✓✓	■ 生成AIバリューチェーンで最も収益化が期待できる領域 ■ ハイパースケーラー上位3社で6割程度のシェア — 日系企業によるグローバルでのプレゼンス発揮は困難
ハードウェア (半導体)	✓	✓✓✓	✓✓✓	■ GPUについてはNVIDIAが圧倒的なシェア — 日系ITサービス企業によるこの領域への参入は困難

日系ITサービス企業が注力すべき領域

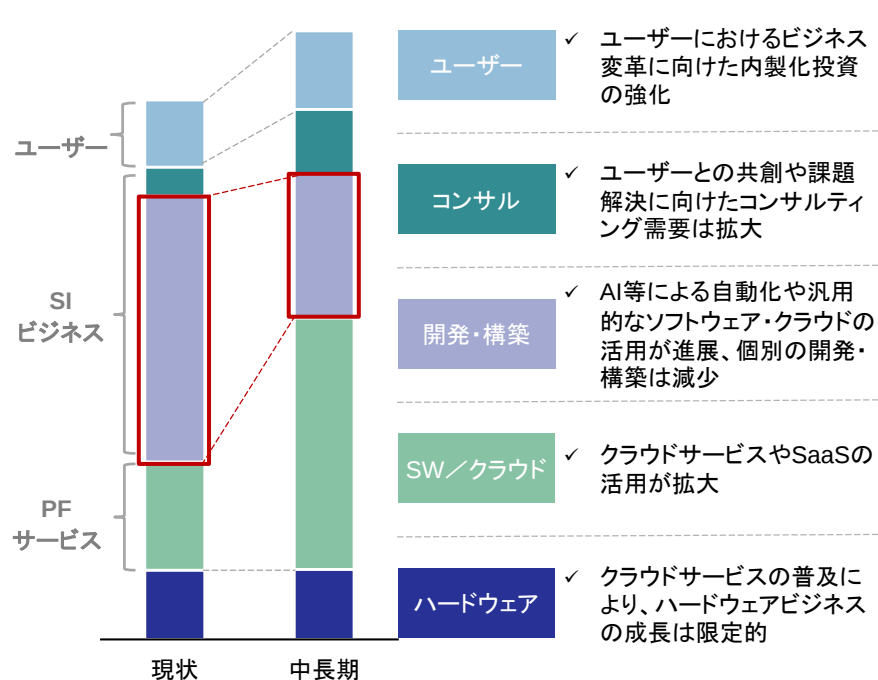
(出所) 両図ともに、みずほ銀行産業調査部作成

【リスク】業界構造変化に伴い、現在の競争力を維持できない可能性も

- IT投資は継続的な拡大が見込まれる一方、顧客ニーズの変化・テクノロジーの進展に伴い業界構造が変化
 - SIビジネスのうち開発・構築は縮小の一方、コンサルティング、ソフトウェア（SW）・クラウド等のPFサービスが拡大
- 構造変化に伴い、業界における競争優位の源泉も変容し、現在の競争力を維持できない可能性 **アナリストの眼**
 - 人材においては、大規模開発への組織的な人材動員力から、上流に特化したケイパビリティが重要に
 - 勃興と衰退の激しいテクノロジーに対しては、継続的な投資と対応力の強化が求められる

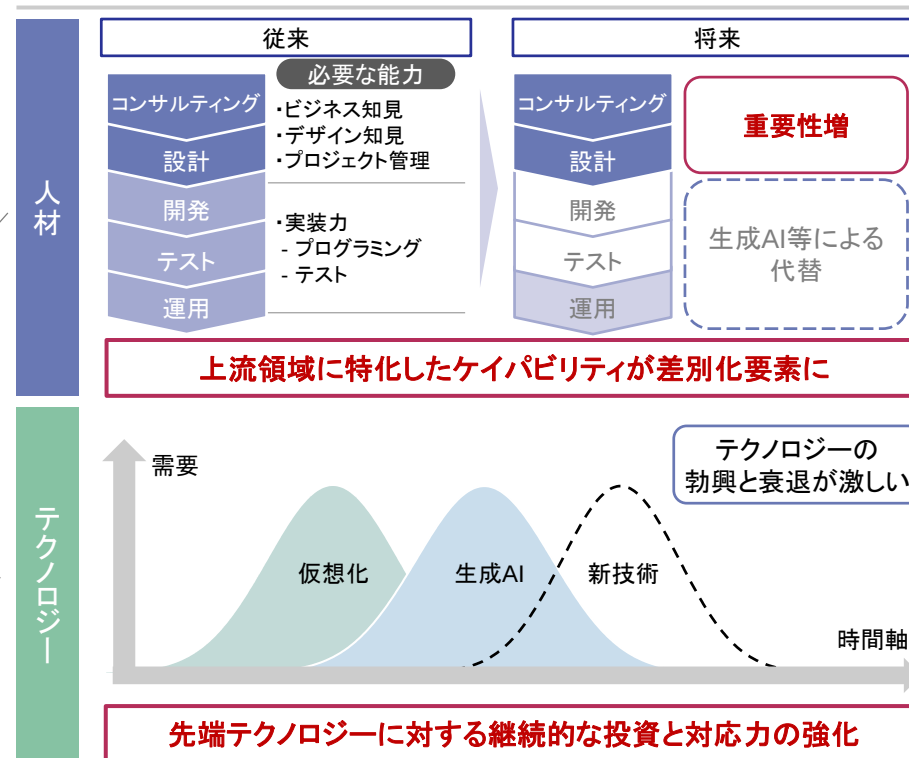
情報サービス業界における構造変化

- DX需要の高まりにより、IT投資の絶対額は拡大する一方、構造変化が進む



(出所)みずほ銀行産業調査部作成

競争優位の源泉

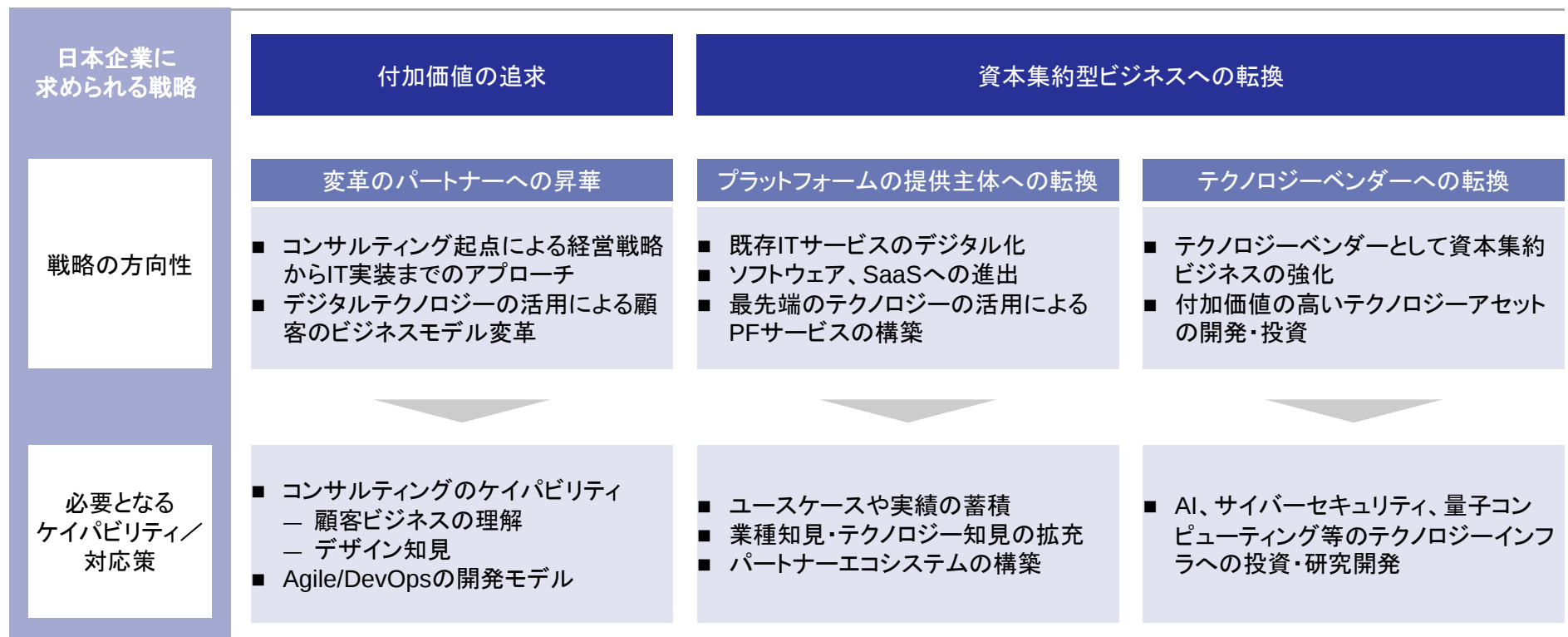


(出所)みずほ銀行産業調査部作成

情報サービス企業は従来の労働集約型ビジネスからの変革が求められる

- 競争環境変化とテクノロジーの進化を背景とした構造変化により、労働集約型のシステム開発・構築ビジネスは縮小
— 従来の労働集約的なビジネスから脱却し、競争力の強化が必要に
- 情報サービス企業は、①顧客企業変革のパートナーへの昇華、②プラットフォームの提供主体への転換、③テクノロジーベンダーへの転換によるビジネスモデルの変革が求められる

情報サービス企業に求められる戦略の方向性



(出所) みずほ銀行産業調査部作成

[アンケートに
ご協力をお願いします](#)



みずほ産業調査73 2023 No.1

2023年12月7日発行

© 2023 株式会社みずほ銀行

本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引の勧誘を目的としたものではありません。本資料は、弊行が信頼に足り且つ正確であると判断した情報に基づき作成されておりますが、弊行はその正確性・確実性を保証するものではありません。本資料のご利用に際しては、貴社ご自身の判断にてなされますよう、また必要な場合は、弁護士、会計士、税理士等にご相談のうえお取扱い下さいますようお願い申し上げます。
本資料の一部または全部を、①複写、写真複写、あるいはその他如何なる手段において複製すること、②弊行の書面による許可なくして再配布することを禁じます。